



No.21-064
2021年 12月 9日

安保破棄中央実行委員会
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-11-13
TEL03-3264-4764 FAX03-3264-4765

美ら海守れ！沖縄県民の民意を守れ！ 玉城知事の辺野古設計変更「不承認」を支持

青森県労連からの報告 連帯する「ブルーアクション」

青森駅前でのブルーアクション
12月3日



11月30日に米軍三沢基地所属のF16が機体トラブルをおこし、緊急着陸に際し、住宅地に燃料タンクを投棄したという重大な事故が発生しました。

事故当日の発表では岩木山付近の「非居住地」に投棄したとしています。また、報道によれば、投棄した操縦士が「緊急事態が発生したので、取るべき手順の通り、無事に期待を空港に降ろす判断ができた」などと話したとしています。燃料タンクの1本は、深浦町の住宅から20mの地点、後日明らかになったように深浦町の山中にもう1本が投棄されていたとのことです。「山中」とはいえ、1個目の投棄から700の地点、深浦中学校から800mの地点です。米軍からみれば青森県はどこでも「地上は非居住地地域」なのかとの怒りもあります。滑走路上に停止したままのため、同日は空港が閉鎖され、民間航空を7便の離着陸に欠航があったことのお詫も当然ありません。

(民間空港をなんだと思っているのだ。米軍用に三沢以外の青森には空港があるわけではないぞ、とこちらも怒り心頭。) 青森県平和委員会が1日に、事故に対する抗議と、F16の配備撤回を申し入れたことはご存じのとおりです。1日には、県知事が「安全が確認されるまで飛行を見合わせるよう」要請していますが、原因究明や機体点検が実施されたと思えない2日には飛行を再開しています。米軍は、民意を無視し続けています。

青森県知事が、急遽上京し防衛省に抗議したと報道されています。東北町・小川原湖へのF16燃料タンク投棄(2018年)、六ヶ所村での模擬弾誤投下(2019年)、小川原湖でのオスプレイ低空飛行・訓練(2021年)と、毎年のように繰り返され、県民の安心と安全は脅かされ続けています。私たち青森県民にとって、「住民の命と暮らしが脅かされ続ける事態を解消したい」という沖縄県民のお思いにはたいへん共感するものです。

「ブルーアクション」当日は、風が強く平日の昼ということもあり参加は16人とどまりましたが、F16の重大事故、配備撤去の思いも込めて、「沖縄県知事の辺野古新基地建設設計変更「不承認」を支持する」アピールを市民の皆さんに訴えました。

青森県での米軍機による燃料タンク投棄に断固抗議する (談話)

米空軍三沢基地所属のF16戦闘機が11月30日午後、燃料タンク2本を上空から投棄し、青森空港に緊急着陸し、7機の民間機が欠航したことが明らかになりました。私たちは、米軍による度重なる暴挙に強く抗議し、当面、同機の飛行停止とF16戦闘機の配備撤回を求めます。

投棄された金属製の燃料タンクは長さ約2m、で容量は1400リットルで、タンクの1つは、同県深浦町の民家が点在する役場近くで発見されました。これは、極めて重大な事故であり、三村青森県知事は「一步間違えば大変な惨事」と述べています。米軍は当初、戦闘機が飛行中に緊急事態に陥り、人が住んでいない地域に燃料タンク2個を投棄したと、偽りの発表をしていました。また、この事故が起きて4時間後に防衛省に連絡しており、住民無視の態度は許されません。

このF16戦闘機は、2018年にも同県東北町の小川原湖で燃料タンク2個を投棄して漁業に被害を与え、2019年には同県六ヶ所村の民有地に模擬弾を落下させるなど、度重なる暴挙に地元住民から怒りが沸き上がっています。

そもそもF16戦闘機は、日本防衛とは無関係の中東派兵を任務としており、危険な訓練を繰り返して日本国民を犠牲にすることは断じて許されません。

青森県では、米空軍横田基地所属のCV22オスプレイが今年6月末に小川原湖上空で危険な吊り下げ訓練を行なったばかりです。

今回の事故でもまた、事故の連絡が外交ルートとされ、事故機の捜査から日本側が排除され、タンクの残骸も米軍が持ち去っています。このような屈辱的な状態を強いているのは、日米安保条約と地位協定です。少なくとも当面、事故の捜査を日本側が行なうことができるよう日米地位協定を改定することが緊急課題です。

私たちは、米軍の度重なる暴挙と、それを容認する日本政府に抗議し、事態の根底にある日米安保条約廃棄に向けた世論を高めるために奮闘します。

以上

青森県での米軍のF16戦闘機による燃料タンク投棄に対して、東森英男事務局長は12月2日、これに抗議する談話を別記を發表しました。